

1. 本時の位置付け

本時は、高等学校学習指導要領(平成30年告示)及び同解説【公民編】に記載されている以下の内容の一部と関連します。

展開	<p>【公共】 「金融の働き」</p>	<p>公民科 Bア (ウ) 職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり(国際社会における貧困や格差の問題を含む。)などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解すること。</p> <p><内容の取扱い> 金融とは経済主体間の資金の融通であることの理解を基に、金融を通じた経済活動の活性化についても触れること。</p> <p><解説> ・現代の経済社会における金融の意義や役割を理解できるようにするとともに、金融市場の仕組みと金利の働き、銀行、証券会社、保険会社など各種金融機関の役割、中央銀行の役割や金融政策の目的と手段について理解できるようにする。 ・金融は、家計や企業からの資金を様々な経済主体に投資することで資本を増加させ、生産性を高め、社会を豊かに発展させる役割を担っていることを理解できるようにする。(中略)様々な金融商品を活用した資産運用にともなうリスクとリターンなどについて、身近で具体的な事例を通して理解できるようにすることも大切である。</p>
----	-------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

また、金融リテラシー・マップとの関係では、「分類4 金融分野共通」、「分類7 資産形成商品」の学習を含んでいます。

2. 本時の目標

- ・ 様々な金融商品を活用した資産運用にともなうリスクとリターンなどについて、「資産形成タイムトラベル」を活用したシミュレーションを通して理解する。
- ・ 資産運用における「長期・積立・分散投資」の効果について考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。

3. 評価のポイント

- ・ 様々な金融商品を活用した資産運用にともなうリスクとリターンなどについて、「資産形成タイムトラベル」を活用したシミュレーションを通して理解している。
- ・ 資産運用における「長期・積立・分散」投資の効果について考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。

4-1. 本時の流れ

本時は、J-FLEC 提供教材「資産形成タイムトラベル」を活用して授業を展開します。

	テーマ	学習活動(●は教師の活動、○は生徒の活動)	指導上の留意点
導入 10分	「資産形成タイムトラベル」の目的と様々な金融商品	<p>金融商品にはどのような特徴があるだろうか。</p> <p>●本時は「資産形成タイムトラベル」を活用し、様々な金融商品の特徴を知り、過去に遡って資産形成のシミュレーションを体験することを説明する。</p> <p>○本時の目的と投資対象となる5つの金融商品(預金、国内債券、外国債券、国内株式、外国株式)の特徴とリスクとリターンの関係などについて理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資産運用記録表・ワークシートを配付する。 教師・生徒ともに「資産形成タイムトラベル」のシミュレーターにアクセスする。 必要に応じてシミュレーター内の「マンガ劇場①・②・③」を確認する。
展開 25分	資産形成の視点	<p>資産形成をする際、将来を予測することは可能だろうか。</p> <p>●グループ(最大10チームまで)に分かれるよう指示し、資産運用記録表を用いながら「資産運用のルール」条件1、条件2、条件3を説明する。</p> <p>○資産運用記録表の「資産運用のルール」条件1、条件2、条件3を閲覧し、ルールについて理解する。</p> <p>●クラスで開始(2000年から設定可能)年と運用期間(5～20年間5年刻みで設定可能、第3タームまでなら15年間、第4タームまでなら20年間)を決定し、第1ターム(5年間)の資産配分を決定させる。</p> <p>○第1タームの資産配分を話し合い、理由とともに資産運用記録表に記入する。</p> <p>●全グループの資産配分をシミュレーターに入力する。</p> <p>○所属グループの資産配分をシミュレーターに入力する。</p> <p>●第1タームの各金融商品のリターンをニュースとともに確認する。</p> <p>○運用結果を確認し、社会・経済の動きによって金融商品の価値が影響を受けることを理解する。</p> <p>※第2～3(必要に応じて第4ターム)においても、上記内容を繰り返す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実際に過去に遡って資産形成をすることはできない。また、未来を正確に予測することはできない中で、どのようにリスクをコントロールすることができるのかを考えさせる。 毎月1万円を5つの金融商品に割り振るので、1年間で12万円、5年間で60万円積み立てることになることを理解させる。 資産配分をする際は、タイムマシンのヒント(今年の漢字、日本の総理大臣、アメリカの大統領)を活用し、社会情勢と関連させながら予測するよう促す。 教師は全グループ分を生徒は1グループのみ入力するとよい。 チーム分けの方法やターム数は学校や生徒の実態に合わせて実施する。
まとめ 15分	学習のまとめ	<p>リスクをコントロールした資産形成はいかにして可能か。</p> <p>●振り返り動画を視聴させ、リスクをコントロールしながら資産形成を行っていく上で「長期・積立・分散投資」が効果的であることを解説する。</p> <p>○本時の学習を振り返りシート内のQ1とQ2をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教師が動画の内容を解説するのでも良い。 分散には3つ(商品・地域・時間)の意味があることを確認する。 投資が資産形成の一助になる可能性があると同時に、社会的な課題の解決につながるなど、社会参画の一面があることに気づかせる。

5. ワークシートの解答・解答例

個人ワーク

資産形成タイムトラベル 振り返りシート

年 組 番 名前

Q1 将来の社会情勢や経済の状況を正確に予測することはできない中、資産形成における金融商品の値動きのリスクを抑えるための方法について、「分散投資」という言葉を使って自分の考えをまとめてみよう。

授業ではシミュレーターを使って過去に遡ることができたが、実際には将来の社会情勢を完全に予測することは不可能であるため、特定の国や企業の成長にのみ期待して資産を投じることは大きなリスクを伴う。そこで私は、「分散投資」によってリスクをなるべく低く抑えるべきだと考える。

具体的には、今回のように複数の金融商品を組み合わせる方法だ。例えば、景気が悪化して株価が下がっても、債券の価格が安定していれば資産全体の急落を防ぐことができる。また、特定の国が経済危機に陥っても、世界全体に投資を広げていけばその影響を一部に留めることが可能だ。

予測不能な未来に対しては、一つの正解を当てるのではなく、あらかじめ「どこが成長しても恩恵を受けられる状態」を作っておくことが、最も現実的で賢明な守り方だと私は考える。

Q2 少額でも長期にわたって積み立てながら資産形成に取り組むことの意義について、自分の考えをまとめてみよう。

少額であっても長期にわたって積み立てる最大の意義は、利息が利息を生む「複利効果」を活用できる点にある。たとえ月々の投資額が小さくとも、時間を味方につけることで、将来的に資産は雪だるま式に大きく膨らむ可能性がある。自分の労働以外で資産を増やす土台ができることは、将来の不確実な経済状況に対する強力な備えになると考える。

参考資料

金融経済教育推進機構(J-FLEC)

・資産形成タイムトラベル

<https://www.j-flec.go.jp/materials/timetravel/>

・使い方マニュアル

<https://www.j->

[flec.go.jp/wpimages/uploads/%E4%BD%BF%E3%81%84%E6%96%B9%E3%83%9E%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%82%A2%E3%83%AB%EF%BC%882.2MB%EF%BC%89.pdf?_gl=1*1nza4bg*_ga*MTA0ODI4MTEyOS4xNzIxMjY0NjY4*_ga_39J3GVK9DQ*cze3NzUwMDgxMzIkbzE2NjMkZzEkdDE3NzUwMDgxNTAkajQyJG](https://www.j-flec.go.jp/wpimages/uploads/%E4%BD%BF%E3%81%84%E6%96%B9%E3%83%9E%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%82%A2%E3%83%AB%EF%BC%882.2MB%EF%BC%89.pdf?_gl=1*1nza4bg*_ga*MTA0ODI4MTEyOS4xNzIxMjY0NjY4*_ga_39J3GVK9DQ*cze3NzUwMDgxMzIkbzE2NjMkZzEkdDE3NzUwMDgxNTAkajQyJG)

・(学校向け)資産運用記録表・ワークシート

<https://www.j->

[flec.go.jp/wpimages/uploads/%EF%BC%88%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E5%90%91%E3%81%91%EF%BC%89%E8%B3%87%E7%94%A3%E9%81%8B%E7%94%A8%E8%A8%98%E9%8C%B2%E8%A1%A8%E3%83%BB%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%82%B7%E3%83%BC%E3%83%88%EF%BC%88292KB%EF%BC%89.pdf?_gl=1](https://www.j-flec.go.jp/wpimages/uploads/%EF%BC%88%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E5%90%91%E3%81%91%EF%BC%89%E8%B3%87%E7%94%A3%E9%81%8B%E7%94%A8%E8%A8%98%E9%8C%B2%E8%A1%A8%E3%83%BB%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%82%B7%E3%83%BC%E3%83%88%EF%BC%88292KB%EF%BC%89.pdf?_gl=1)

資産形成タイムトラベル！
資産運用記録表

チーム

<資産運用のルール>

条件1 毎月1万円を、5つの金融商品に、あらかじめ決めた資産配分の割合で一定期間運用します。
※ 必ず5つの金融商品に資金を割り振る必要はありません。いくつかに絞っても、1つにまとめて投資しても構いません。

条件2 資産配分は5年ごとに見直します。

条件3 運用の対象となる金融商品は次の5つです。

預 金：日本の円預金(定期預金)で運用します。

国内債券：日本の国債、社債を組み合わせで運用します。

外国債券：日本を除いた主要国の国債を組み合わせで運用します。

国内株式：日本の株式市場の平均株価で運用します。

外国株式：日本を除いた主要国の株式市場の平均株価を組み合わせで運用します。

○ 第1ターム (年～ 年)

	① 配分	理 由	② 投資金額	③ 運用成績
預 金	%		600,000円	円
国内債券	%			
外国債券	%			
国内株式	%			
外国株式	%			
合 計	100 %			

○ 第2ターム (年～ 年)

	④ 配分	理 由	⑤ 投資金額	⑥ 運用成績
預 金	%		1,200,000円	円
国内債券	%			
外国債券	%			
国内株式	%			
外国株式	%			
合 計	100 %			

○ 第3ターム (年～ 年)

	⑦ 配分	理 由	⑧ 投資金額	⑨ 運用成績
預 金	%		1,800,000円	円
国内債券	%			
外国債券	%			
国内株式	%			
外国株式	%			
合 計	100 %			

○ 第4ターム (年～ 年)

	⑩ 配分	理 由	⑪ 投資金額	⑫ 運用成績
預 金	%		2,400,000円	円
国内債券	%			
外国債券	%			
国内株式	%			
外国株式	%			
合 計	100 %			

資産形成タイムトラベル 振り返りシート

年 組 番 名前

- Q1** 将来の社会情勢や経済の状況を正確に予測することはできない中、資産形成における金融商品の値動きのリスクを抑えるための方法について、「分散投資」という言葉を使って自分の考えをまとめてみよう。

- Q2** 少額でも長期にわたって積み立てながら資産形成に取り組むことの意義について、自分の考えをまとめてみよう。